

平成23年度瑞陵会交流会

23年度交流会は2011年8月28日(日)12時30分からメルパルクNAGOYAで開催されました。第1部は鬼頭美保子氏(瑞21回)の司会で行われ、先ず瑞陵会会長高木修氏(瑞5回)が挨拶されました。

高木氏は「会長を長く務めてきたが、ようやく立派な後任が決まる見通しとなり、やっと肩の荷が下ろせる。毎年8月第4日曜に開いている交流会を今年は還暦を迎えた方々に中心になって担当していただいている。一番気懸かりなのは東日本大震災のこと、記念講演で野中勝氏(瑞21回)の話を聴くのも時宜にかなっている。元瑞陵の尾崎先生(英語)から現金2万円が送られてきて、1万円は会報を長年只で送ってもらって申し訳ないからと当会へ、1万円は東日本の被災地救援に当ててほしいとのことだった。そこでこの会場にも募金箱を置いたので少しでも協力をお願いします」と述べました。

続いて記念講演に入りました(講演要旨別掲)。講演、質疑のあと会場を移して第2部、交流会となりました。来賓として山口春久瑞陵高校校長が挨拶、実行委員澤田耕一氏(瑞21回)の発声による乾杯で開宴、



同期生、また世代間での歓談に花が咲きました。

アトラクションとして恒例の抽籤のほか、今年は渡辺一郎(瑞21回)、市川貴茂(瑞29回)両氏のバンド、リカーズの生演奏がありました。

最後に次期瑞陵会会長に就任予定の日本商工会議所専務理事、中村利雄氏(瑞17回)が紹介され、中村氏の、瑞陵会の益々の発展に向けた力強いご挨拶をもって23年度交流会は盛会のうちに閉幕しました。

平成24年度 瑞陵会 総会・記念講演・交流会のお知らせ

日時 2012年8月26日(日) 12:30~16:30

場所 メルパルク名古屋

名古屋市東区葵3-16-16 (JR千種駅徒歩5分、地下鉄千種駅1番出口すぐ前)
電話 052-937-3665

会費 5,000円 当日会場でお支払い下さい(平成22年以降の卒業生は無料)

日程 12:00 受付開始(3Fサルビアの間)

12:30 瑞陵会総会(3Fサルビアの間)

——終了ご記念講演用に会場準備

13:30 記念講演(3Fサルビアの間)

講師 松下 雋(瑞17回、日本ガイシ(株)代表取締役会長、中部経済連合会副会長、NHK経営委員、他)

演題 「日本の重要課題 ~経営者の視点で~」 ——終了後2Fに移動~受付も移動

14:30 交流会(2F 瑞雲東の間にてビュッフェ式パーティー)

記念講演

演題「東日本大震災における緊急消防援助隊の役割」

講師 野中 勝 氏 (瑞21回、旧姓大村)

緊急消防援助隊愛知県隊第3次隊隊長

現在 名古屋市消防局特定災害業務支援嘱託員

講演要旨



1 緊急消防援助隊とは
消防の仕事は消防法と消防組織法で定められている。消防は市町村の業務であり、消防局、または消防本部で通常の災害に必要な組織、機材を整えている。それ以上の災害では近隣の市町村で応援するようになっている。

大規模災害では、以前は県知事が消防庁へ要請し、消防庁が各県知事に応援要請を出すようになっていたが、阪神淡路大震災のとき兵庫県知事からの要請がなく、出動の遅れ、その後の混乱があった。そこで組織法が改正され、知事の要請がなくても消防庁の判断で要請するようになった。

緊急消防援助隊（緊援隊）は平成7年発足、平成16年4月組織法に明記された。これまでの県の活動は平成8年長野県での土石流災害と平成15年三重県での乾燥ごみ燃料の火災の2回。

今回、愛知県隊は宮城県亶理郡亶理町を支援するよう消防庁から指令を受けた。県隊長の下に県指揮隊、その下に消防隊、救助隊がある。このほかに本部課長クラスの人達で構成される指揮支援隊があり、今回、県隊とは別に岩手県へへりで飛んだ。

各県隊は先方の消防本部の下で働くことになっているが、県隊（300名）の方が人数が多いので実質は愛知県隊を亶理消防隊が手伝う形だった。法律上、経費は受入れ市町村が負担することになっているが、それどころではないので今回は国が負担することになった。

愛知県は緊援隊に登録されている車両200、人員881名を交互に使って第1次隊から第16次隊まで送った。阪神淡路大震災のときは食糧持参で、交代が来るまで寝るなどいわれ、72時間不眠不休だったが、今回は消防隊、救急隊と同数ぐらいの後方支援隊がテント、ベッド、寝袋、炊事用燃料などを持って同行した。

2 被災地に到着するまで

私が指揮する第3次隊の出発は13日。現地まで団体で移動したが、SAでの給油ではすべての車両が済むまで1時間半かかった。途中のスーパーには食糧が無く、本部からトラックで送ってもらった。東北自動車道は走行に問題はなく、大震災があったと感じられなかったが、最後のSAではオンラインが切れてカードが使えず、隊員から金を集めて給油した。

3 現地での活動

亶理消防本部の庁舎は無事だったので、テントで寝ずにすんだ。阪神淡路大震災では下水が壊れたが、亶理町では下水は使えた。学校のプールからバケツで運んだ水で庁舎の水洗トイレを使用した。

常磐自動車道を境に海側は津波で被災、陸側と大きな違い。常磐自動車道に登れば助かったはず。亶理町の消防本部は73名。消防職員は全員無事だったが家族が行方不明の人もいた。

水の深いところはドライスーツが必要だったが、持っていない隊員はカッパと長靴をガムテープでとめて作業をした。生存者のいそうな建物から優先的に検索、済むと検索済みのマークをつける。生存者は救助し、遺体はバスケットストレッチャーで運び、警察に引き継ぐ。

県隊長の仕事は二次災害を防ぐこと。隊員を守ると同時に町民を守ること。警報が度々出る。有線放送は停電で使えず、住民に知らせるのは愛知県隊。

情報が少なく、携帯電話は当てにならない。使えるのは愛知県隊本部の通信衛星電話、消防車の無線（これには自衛隊ヘリの無線も入る）と第1次隊の置いていったワンセグテレビ。震度4程度の余震は頻繁にあり、一度はヘリから津波目撃の情報があった。宮城県から県隊全員に避難命令が出たが、TVを見ると警報は出ておらず、活動を再開した。

15日に町民から原発爆発の情報が入った。名古屋市消防本部からは亶理消防本部へ帰れという指示があったが、県隊の線量計には異常がなく、私の権限で活動再開命令を出した。

県隊長が被災現場へ出られたのは15日。残った店には何もなかった。全て津波で流されたとは思えない。聞くところでは一番多いのがガソリン泥棒とのこと。

山側は被害がなかった。亶理町は豊かな町で、人情も厚い。いちご、おにぎり、ゆで卵などの提供があった。亶理町の消防隊員は震災後自宅に帰ってない。14日になって2時間ずつ交代で帰宅した。奥さんを亡くした方もあった。

シャワーの設備を積んだ大型の車が消防庁から貸与されていたが、使ったのはドライスーツで活動している者で、ほとんどの隊員は着替えもしなかった。自分はコップ1杯の水で歯を磨いた。

4次隊は15日昼に到着した。命令では4次隊と交代してすぐ帰ることになっていたが、昼間は4次隊と共に活動し、15日夜出発。帰りも揃って帰ることになっていたが、時間がかかるし、隊員を早く帰宅させたかったので現地解散した。16日昼帰着。県隊長が名東消防署で報告して派遣任務は修了した。1次隊、2次隊の場合は名東消防署、さらに全員揃って市役所で消防長と市長に報告会、さらに後日、県隊長が市の幹部

<p>司法書士グリーンフォーラム</p> <p>司法書士 林 勝 博 (瑞19回)</p> <p>〒458-0036 名古屋市緑区六田一丁目200番地 TEL.052-624-1885 FAX.052-621-1384</p>	<p>株式会社 光商会</p> <p>取締役社長 吉 田 明 弘 (瑞13回)</p> <p>〒456-0052 名古屋市熱田区二番一丁目14-8 TEL.052-682-6211 FAX.052-671-0135 URL http://www.hkr-s.co.jp</p>	<p>佐久間医院</p> <p>院 長 佐久間 修 三 (瑞19回)</p> <p>〒464-0811 名古屋市千種区朝岡町2-1 TEL/FAX.052-781-0430</p>
---	---	--

達に報告会を行っている。

隊員1人が、ドライスーツの下から足に釘が刺さる怪我をした。帰ってから1人、運転手の靴底から放射能が検出された。おそらく福島県のPAで降りたとき付着したもの。

今回、自分の周辺からは経験を積ませるため若い人を隊員に選んだ。若い隊員を1人記録係にしようと思ったが、記録どころでなかったが、コンピューターの得意な彼が地図を作成するなど役に立った。

4 緊急消防援助隊に期待すること

燃料補給。大きなタンクローリーを現地へ出すのも一つの考え。

市役所、消防本部のなくなった所は緊援隊だけ行つてよいのか。行政全体にわたってどの市をどの市が通年支援するかという制度が必要。これは3月22日になって総務省が指示を出した。

派遣する側は、通常の業務を減らすなどいわれている。週休者を呼び出すと、後日代休を与える必要があるが、やりくりが難しい。地元へのサービスを減らさないというのは理解できるが、全国が少しずつ痛みを分かち合えばと思う。

迅速な派遣が求められているとき、何のためにセレモニーが必要か、と強く感じる。訓示、訓示、敬礼。特に1次隊、2次隊は消防精神を持った精鋭が揃っている。



会 長 挨拶

瑞陵会会長 中村利雄
(瑞17回)

1月31日の臨時総会で瑞陵会会長に選任されました17回の中村利雄です。私は、東京在住で十分な活動ができないのではと思いましたが、17回同期各位の御支援、御協力が得られるということで、会長をお引受けしました。同窓生各位には高木前会長と同様のご好誼を賜りますようよろしくお願いいたします。高木前会長には、100周年事業を成功させる等、瑞陵会と母校の発展に多大な貢献をなされました。ここに改めて厚く感謝を申し上げます。今後も名誉顧問としてご指導を賜りますようお願いいたします。

我校は、五中以来多くの人材を輩出して来ましたが、その絆を確かなものとし、そのネットワークを拡充したいと考えています。青春を謳歌した共通の思い出は、最も強い絆の一つであり、交流を図り、ネットワーク

の拡充を図ることは同窓生各位の強いニーズであると考えます。また、このことによって母校の発展、在校生の支援も可能になると考えるからです。このためには、交流会を含む同窓会活動への参加者、賛同者を増加させなければなりません。

先ずもって、活動内容の充実を図るとともに、連絡体制を整備し、母校及び瑞陵会の現状や活動状況の周知を図ることは、喫緊の課題であると思います。

このため、1月31日の臨時総会で、財政基盤の確立を図るため賛助会費（1口5000円、5年間分、毎年会報を送付します）を募ることとともに、活動の基盤となる期別幹事の整備、副会長及び常任幹事の増加、各界で活躍する先輩、同僚からなる顧問の設置等の組織体制の整備を行うこととしました。お声がかかりました際には、何卒、御協力の程お願い申し上げます。また、連絡を密にするため、住所、メールアドレスの登録整備を進めることとしています。

毎年恒例の瑞陵会総会・交流会は8月第4日曜日(今年は8月26日)です。多くの同窓生の御参加を期待しています。 元 愛・地球博(愛知万博)事務総長 現 日本商工会議所 専務理事



ご挨拶(退任にあたって)

前会長 高木 修
(瑞5回)

私は、平成10年4月、瑞陵会会長に選出され、本年3月に退任しました。その間、大先輩の鳥居大先生(五中37回生)のもとで、平成16年11月22日に発足した「五中-瑞陵百周年」(以下、「百周年」と言います)の記念事業委員会に参画しました。

私と瑞陵会の関わりは瑞陵高校を卒業後しばらくし

て、私が地元の大学に在学中であったことから、中神靖先輩(五中40回生・瑞陵3回生)より「瑞陵高校同窓会」設置準備会に、瑞陵5回生の連絡係として参加するように招集されたのが始まりです。

この準備会により昭和25年「瑞陵会」が発足するわけですが、瑞陵高校は昭和22年4月の新学制(6・3制)により、旧五中、旧実務女学校等が統合されていたことを配慮し、各校の同窓会を一体として新発足したのです。私は「瑞陵会」発足後も出来るだけ役員会に出席するように心がけていましたが、次第に仕事に追われるようになり、役員と同期会の世話役を他の方をお願いして、少し距離を置くことになってしまいました。

ところが、平成9年3月中神会長は満72歳を潮に退

<p>エール国際特許事務所</p> <p>弁理士 間瀬 銈一郎 代表パートナー (瑞11回)</p> <p>〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-7 丸の内OSビル4F TEL.052-959-4520 FAX.052-959-4522</p>	<p>名古屋フランスcorp株式会社</p> <p>代表取締役 服部 幸三 (瑞14回)</p> <p>〒470-0112 愛知県日進市藤枝町西外面16番地 TEL.0561-75-4600 FAX.0561-75-4545 URL http://www.nagoyafrance.co.jp</p>	<p><small>アワタ</small> 栗田敬八税理士事務所</p> <p>所長 栗田 敬八 (瑞19回)</p> <p>〒454-0911 名古屋市中川区高畑2-14 シェルコート高畑401号 TEL.052-351-0251 FAX.052-352-8268</p>
--	---	--

任されるにあたり、私を後任会長に推薦されたのです。

歴代瑞陵会会長は、いずれも人格・見識を兼ね備え、かつ県下財界の重鎮の方々が歴任されてきました。本来ならば、私のような者が会長になることなど到底考えられないのですが、新生瑞陵高等学校の実質第1回生として、これまで会務を怠けていた責任を痛感するとともに、「百周年」記念事業の実施・成功のために瑞陵会を順次改革する必要があると判断し、暫定的に会長をお引き受けしたのであります。

しかしながら、瑞陵会の改革（特に、各期幹事の確保と運営資金の充実）は思うように進まないばかりか、後任会長の選出も全く見通しが立たず、「百周年」は間近に迫り、焦るばかりの毎日でした。このような状況の中で、やむなく私が会長を続け、「百周年」の実行

委員長には鳥居大先生(元名古屋市教育委員会教育長)をお願いして助けていただきました。

「百周年」は同委員長のもと、関係者各位の献身的な協力により、無事執り行うことが出来ました。改めて御礼申し上げる次第です。ところが、後任会長については「百周年」終了後も役員会で後任会長候補の名前すら出ないまま推移していたのが実情でした。

今回、瑞陵17回生の方々のご配慮で、元中小企業庁長官、現日本商工会議所の専務理事という要職にある中村利雄さんが会長を引き受けてくださいました。これに加え、同期生の方々も快く役員を引き受けてくださり、役員体制も充実しました。感謝に堪えません。

今後は中村会長のもと、瑞陵会が益々発展することを祈念し、退任のご挨拶といたします。



萩 に て

校長 吉 沢 雅 之

前任の山口春久校長の後任として、この4月に赴任しました。創立105年目を迎えるという伝統校の揺るぎない校風のもと、生徒ひとりひとりが自信と希望に満ちた生活を送ることができる憧れの学校づくりを目指して、ささやかでも貢献できたらと願っております。

さて、本年5月には2年生の学年団と一緒に修学旅行へ行って参りました。修学旅行2日目の萩は晴天で、私が同行したクラスは最初にバスで松陰や晋作の墓まで行き、そこを歩いて参った後、続いて礎石の位置のみがわかる松陰生誕の跡地を見ました。萩の町が一望でき、なんて見晴らしのいい場所に生まれたんだらうという生徒の声が聞こえ、私もまた頷きながら松陰の未来を見つめる力の原点はここにあったのではないかと思ったものでした。

下っていくと玉木文之進生誕の家の案内表示があり、ぜひ寄っていきたく思ったところ、生徒が数人そこへ向かったので後をつけて行きました。そこでは、ボランティアの案内のおばさんが、家の中に入るように進め、私たち（生徒6名と私）は玉木家、杉家、吉田家の家系図の前で説明を受けました。

おばさんは、必死で当時の青年の心意気を伝えようとしているようでした。気軽に立ち寄ったわりに話が長くなり、最後におばさんは、「あなた方がここに立ち寄ったということは、松下村塾の原点に来たということです。あなた方には他の皆さんにはない使命がある。日本のため世界のために活躍してほしい」と言われました。私もそう思わずにはられません。この子たち

に代表されるこれからの瑞陵高校生にはきっと不思議な使命があるのだと信じた気持ちでした。

松陰神社に降りてきて、私はまた、ささやかな造りの松下村塾と別邸の松陰が幽閉されていたという部屋を見ました。時間はゆうに残っており、私はどこへ行こうか迷いました。見学者の多くが売店のアイスを目当てに群がっており、私も外へ出ようとしたが、そのとき、さっきのおばさんが「至誠館に寄るといいよ」と言っていたことを思い出しました。

生徒はおそらく行ってはいないだろう。入館料の表示を見てそう思いましたが、私はおばさんの言葉を信じなければという思いで入館してみました。

松陰の直筆の書面がいくつもあり、急に時間が足りないもどかしさを感じながら回ることになりました。しっかり読む時間は十分でなくても「その心よ伝われ！」の思いで。

その中に、あっと思うものがあり、ここへ来てよかったと直感したものでした。吉田松陰が江戸へ旅立つ前に、当時の家老村田清風に挨拶に行き、そこで教えられたことへの感謝を書状で送ったものです。そこには、「時や失うべからず」この言葉を頂門の一針にしたいと誓う文面がありました。

松陰が誓ったこの言葉こそ、若者が将来何事かをなす場合、必須の指針ではないかと思いました。と同時に、将来を嘱望される瑞陵高校生を育成するわれわれ教職員が最も心すべき言葉ではないかと感じたのです。

4月当初、瑞陵高校の歴史を少し調べてみたとき、私は輝かしい歴史と伝統と同時に、やや不運と思われる出来事の中に、いくつか「時を失ってしまった」事例があるのを目にしました。私も松陰の誓った言葉を頂門の一針とさせていただいて、瑞陵高校のこれからの発展のために少しでも貢献させていただくことができればと心の中で祈念して、その場を後にしました。

<p>滝山獣医科病院</p> <p>獣医学博士 滝 山 昭 (瑞16回)</p> <p>〒458-0835 名古屋市緑区鳴海町上汐田220 TEL.052-621-0179 FAX.052-621-2020</p>	<p>株式会社 東谷商店</p> <p>取締役会長 東 谷 正 文 (瑞 5 回)</p> <p>〒467-0878 名古屋市瑞穂区船原町1丁目15番地 TEL.052-881-0700 FAX.052-881-2909</p>	<p>近藤産興株式会社</p> <p>代表取締役 近 藤 昌 三 (瑞10回)</p> <p>〒457-0822 名古屋市南区浜田町1-10 TEL.052-614-2511 FAX.052-611-5826</p>
--	---	---

関東瑞陵会・第十回総会のご報告

関東瑞陵会会長 広田 健一 (瑞16回)



思い起こせば17年前、都バスの中で「同期会ニュース」を読んでいた時、「瑞陵って愛知県の瑞陵高校のこと？」と、声を掛けていただいた11年先輩の三武真人さん(5回)との出会いが、関東瑞陵会のスタートでした。そして三武さん、福岡俊光さん(5回)の両先輩と同期の荒木郷兵さんの4人で、何度も何度も打ち合わせを繰り返し、また瑞陵会本部とも相談して、1年半後にやっと発起会を、その4ヵ月後に第一回総会を開催することが出来ました。

初代の会長は三武さんに、さらに第5回総会からは、二代目の会長として飯田治利さん(9回)にお引き受けいただきました。

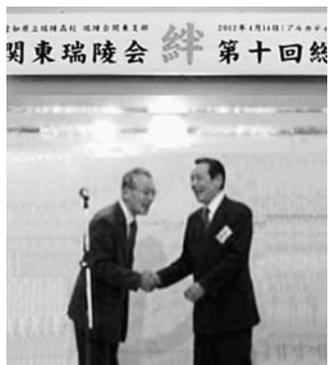
関東瑞陵会発足の詳しい経緯は、「2006年の瑞陵会報」や、「五中-瑞陵百周年記念誌」に書かせて頂きましたが、色々な苦勞の末、今年第十回という記念すべき会を催すことが出来ました。

そしてこの記念すべき年に「会長」の大役を仰せつかることは、誠に身にあまる光榮と思っております。

関東瑞陵会・第十回総会は、2012年4月14日(土)に東京の「アルカディア市ヶ谷」で過去最高の154名が参集し、一瞬で十代にタイムスリップしてしまう、あの独特の雰囲気のもと、賑やかに楽しく盛り上がりました。

今回から「絆」を総会のテーマに掲げました。関東瑞陵会が「絆の再発見場所」になれば、と言う思いからです。これは、若い幹事が提案してくれました。

これまで、同期の荒木さんや江副嘉彦さんと手探りで関東瑞陵会の運営を行ってきましたが、今回から細かい運営については18回の安島政実さんを中心に、19回・29回・42回の幹事が引き継いでくれることになり



<会長引継ぎの握手>

ました。テーマの「絆」以外にも、色々と新しい提案が出てきました。「趣味・関心・専門・仕事(前職含む)」等を自由に書き込んでいただく「絆の再発見シート」も取り入れました。同級生との旧交を温めるだけではなく、趣味や関心事の共通した絆の「再発見」に役立てば、と思っています。初めての試みでしたが、嬉しいことに8割以上の同窓生が記入してくれました。

今後この「絆再発見シート」を切っ掛けに、新たな絆が生まれてくれることを願っています。

第十回総会のプログラムを簡単に紹介します。

司会役の安島さんの開会のことばに続き、会長の飯田さんの挨拶及び新会長広田の紹介。次いで来賓の瑞陵会会長・中村利雄さん(17回)のご挨拶に続き初代会長の三武さんの乾杯の音頭で、賑やかな宴のスタートです。ひと時の食事・歓談の後、幹事の紹介、続いて出席者をテーブル単位で紹介し、併せて記念写真も撮りました。

そこからイベントタイムが始まります。私が学生時代から続けている「カントリー・ソング」を2~3曲歌わせていただきました。(自己評価は差し控えます。)

次にストレスケアの本も出版されている、石川好美さん(23回)のミニセミナーが行われました。ストレス解消の体操など、加齢者に不可欠な内容でした。

そしていよいよお待ちかね、「ちょっと嬉しい抽選会」と銘打ったプレゼント大会が、橋本淳さん(42回)の進行で賑やかに催されました。なんと参加者の6割以上が当たるという豪華版でした。楽しかった総会も最後のプログラムとなり、総勢154人による大記念撮影、校歌斉唱から古姓幸多朗さん(19回)によるエールを皮きりに、応援歌「ああ若人の血は燃えて」を大声で歌いました。最後に新副会長の荒木郷兵さんの「また二年後に会おう！」のことばで「二年後の再会」を期して、楽しい想いを胸に散会しました。



<総勢154人による大記念撮影>

平成26年4月開催予定の、関東瑞陵会第11回総会に是非一度お越し下さい。幹事一同お待ちしております。

<p>株式会社 新栄商会</p> <p>代表取締役 会 長 時 津 忠</p> <p>(瑞15回)</p> <p>〒468-0056 名古屋市天白区島田2-516 TEL.052-801-1222(代) FAX.052-803-1321</p>	<p>株式会社エイチ・ケイ・コーポレーション</p> <p>代表取締役 社 長 加 藤 秀 雄</p> <p>(瑞25回)</p> <p>〒352-0006 埼玉県新座市新座1-13-19 TEL.048-485-1483 FAX.048-479-7701 Email katochan@df6.so-net.ne.jp</p>	<p>かみのくら整形外科</p> <p>医 院 長 加 藤 齊</p> <p>(瑞35回)</p> <p>〒458-0808 名古屋市緑区東神の倉三丁目1805番地 TEL.052-875-0555 URL http://www.myclinic.ne.jp/kaminokura/</p>
---	---	--

杉原千畝氏に関する2つの話題

西 郷 孝 (瑞陵27回卒)

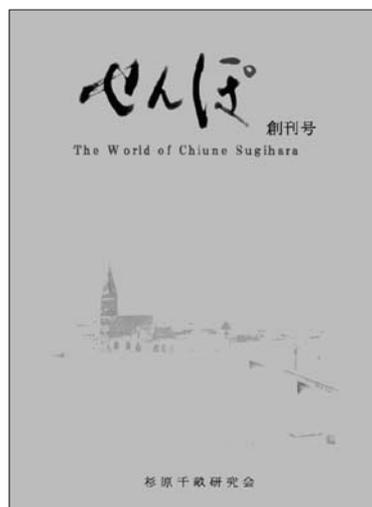


瑞陵生に語りかける中谷剛さん
アウシュヴィッツにて2006. 7. 24

廣瀬清市瑞陵高校奨学事業として「リトアニア・ポーランド派遣」が2006年と2007年の2度にわたり実施され、合わせて27名の瑞陵生が杉原千畝氏がユダヤ人にビザを発給したリトアニア・カウナスの旧領事館（スギハラハウス）やポーランドのアウシュヴィッツ収容所などを見学しました。2006年の派遣団がアウシュヴィッツ収容所を訪れた際には、日本人でただ一人現地でガイドをされている中谷剛さんに案内をしていただきました。中谷さんには「アウシュヴィッツ博物館案内」（凱風社2005年）という著書もあり、派遣生徒の事前学習にも利用させていただきました。その中谷さんからメールが届き、「アウシュヴィッツ博物館案内」の第2版をこの9月に出す予定であり、その「序文」の中に瑞陵生がアウシュヴィッツを訪れたことに触れたいというものでした。メールには、派遣生徒の生き生きとした表情が印象的だったこと、この派遣が卒業生である元校医（故廣瀬清市先生）の出資によって実施されたことに感銘を受けたと書かれていました。中谷さんには、杉原千畝氏の母校の高校からの派遣ということで、特別に杉原千畝氏と絡めて熱心にアウシュヴィッツを案内していただきました。「どうして

こんなことが起こってしまったのか、考えれば考えるほどわからなくなる。」「ユダヤ人が残したカバンや眼鏡の山を背景に軽い気持ちで記念写真を撮るカップルがいるがその感覚は異常だと思う。虐殺が行われた当時はドイツ国民の多くがナチスを支持しており、やはり異常な状況だったのではないか？」など、話された内容は今でもはっきりと記憶しています。

杉原千畝氏の妻幸子さんの「六千人の命のビザ」を出している大正出版の社長であり、「決断」「真相」などの杉原氏関連の著書もある渡辺勝正さんより、小冊子『せんぼ』（年4回発行予定）の創刊号を刊行したとの連絡をいただきました。後世の杉原研究に少しでも役立つ資料を作成することを目的として、これまでに発表した杉原テーマに関する論文、新しい研究発表、歴史的史料、杉原に対する顕彰行事、マスコミの掲載記事、当研究会の活動などの記録や資料が散逸しないよう、小冊子に収録することとしたとのことです。渡辺氏には、2000年に瑞陵会の生徒向け企画として劇団銅鑼の「センボ・スギハラ」を招聘したときのパンフレット掲載用に杉原氏の写真を提供していただいて以来、度々お世話になっています。『せんぼ』創刊号はA5版24頁で、インタビュー「歴史の中で自分の役割を考える」奥島孝康、「杉原千畝と都の西北」（早稲田大学講義録〜）渡辺勝正などの記事があります。購読希望の方は、「郵便振替00190-7-50349 大正出版株式会社」に年会費1600円を払い込み下さい。



<p>てらかど動物病院</p> <p>院長 寺門 俊博 獣医師 (瑞45回)</p> <p>〒465-0087 名古屋市名東区名東本通5-19 TEL.052-703-1101 FAX.052-703-1189 URL http://www.terakado-ah.com</p>	<p>太子歯科医院</p> <p>院長 小森 敦夫 (瑞33回)</p> <p>〒458-0823 名古屋市緑区太子2-190 TEL.052-623-1184 FAX.052-623-0799 URL http://www.taishi-dental.com/</p>	<p>ムツミ工業株式会社</p> <p>代表取締役 近藤 哲典 (瑞22回)</p> <p>〒462-0866 名古屋市北区瑞光町5-1 TEL.052-913-2111 FAX.052-913-2100 URL http://mutsumi-industry.co.jp</p>
--	--	---

五中・瑞陵史発掘

瑞陵の感喜堂（旧講堂）

—名古屋市内に現存する最古の講堂—

三 品 耕 作 (瑞47回)
mishina_kosaku@hotmail.com

旧制五中を前身とする新制高校として瑞陵高校が発足したのは1948年（昭和23年）である。事実上の校地移転（瑞穂区高田町（旧制五中の校地）→同区北原町（旧愛商の校地跡。現在の瑞陵の校地））のため、瑞陵発足期の建造物は全て、旧愛商の建造物を受け継いだものであった。当時の建造物は、今では、旧講堂（以下、「感喜堂」という）と旧正門しか残っていない。

前回の寄稿でも指摘したように、瑞陵の校史は、旧制五中との連続性に眼を奪われ、旧愛商との連続性を見過ごしている。そのため、感喜堂の竣工時期についても瑞陵史で言及されたことは今までなかった。したがって、感喜堂が、名古屋市内に現存する最古の講堂であることは、瑞陵関係者の間でさえも意外と知られていないのである。

感喜堂が竣工された年は、1924年（大正13年）である。我が国の教育機関の講堂としては東京大学の安田講堂が有名であるが、竣工1925年（同14年）の安田講堂より、感喜堂の方が古い。感喜堂は、市内唯一の大正時代の講堂でもある。

中等教育の学校に由来する、市内に現存する「古い」建築物としては、以下の4つが知られている。旧制愛知中学校本館（竣工1928年（昭和3年））、旧制東海中学校講堂（竣工1931（同6年））、旧制南山中学校本館（竣工1932（同7年））、旧制金城女子専門学校附属高等女学部講堂（竣工1936年（同11年））である。いずれも昭和時代の建築物であり、歴史は大正時代の感喜堂

に及ばない。この4つの建築物は国の登録有形文化財（建造物）である。さすが私学は自校アピールには敏感なのであろう。瑞陵も見習うと良いかもしれない。

感喜堂には姉妹がいる。というのは、旧愛商の北原校舎建設と同時期（大正後期）に創立された、旧制六中（現一宮高校）、七中（同半田高校）、八中（同刈谷高校）、そして同時期に火災より再建された三中（同津島高校）等の建造物は、その意匠・構造・配置がほとんど同じであったからである（県下のナンバースクールのうち、明治時代の一中～五中の建造物は各々個性的で、大正時代の六中～八中は画一的なのは興味深い）。そのため、感喜堂とほとんど同じ意匠・構造の講堂が少なくとも県下に5棟は存在した。しかし、今や多くは取壊されてしまい、現存するのは瑞陵の外には津島高校旧講堂（竣工1923年（大正12年））だけである。2年前に、津島高校同窓会が、創立110周年記念事業として旧講堂を改修した。雨漏りがあるのは現在では感喜堂だけである。

感喜堂は再来年で竣工90周年である。そのうち、瑞陵の建物として66年間使用されており、瑞陵発足期をしのぶ唯一の建築物としても貴重である。是非とも竣工90周年を祝したいものである。まして、瑞陵の教育目標の一つは「伝統・文化を尊重する」ことである。まずは私たち卒業生が在校生への模範を示したい。伝統を誇りにする瑞陵会が感喜堂の改修事業に乗り出すことを私は切に願う。

《注》感喜堂の竣工時期につき、瀬口哲夫『官庁建築家・愛知県営繕課の人々』（C&D出版、2006年）を参照した。なお、用途に応じて「講堂」や「図書館」と呼ばれていた旧講堂を、1979年（昭和54年）に「感喜堂」と命名したのは、瑞陵在職中に新美南吉文学賞を受賞した、国語科職員（当時）の堀尾幸平氏である。現在の用途は定時制食堂である。

原稿募集のご案内

編集委員会では、『五中・瑞陵史発掘』シリーズの原稿を求めています。事件、出来事、卒業生の活躍、学校行事、生徒会活動、クラブ活動などについて書いていただける方、資料を提供していただける方はふるってご寄稿ください。また、推薦していただける方があれば、その情報も編集委員にお知らせください。

編集責任者：浜島昭二（瑞19回） shoji.hamajima@gmail.com

瑞陵会親睦ゴルフコンペの御報告(4)

瑞陵会親睦委員会ゴルフ幹事 木村 鍾 治 (瑞18回)

時下 皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

瑞陵会ゴルフ幹事の木村です。昨年秋から今年春までに行われた親睦会ゴルフコンペの結果等についてご報告申し上げます。

平成23年10月26日、第16回コンペを新陽C・Cにて、また本年5月23日、さなげC・Cにて第17回コンペを実施致しました。参加者は16回コンペが18名(男性10、女性6)、17回コンペが23名(男性18、女性5)という状況でした。

16回コンペでは20回生が2名、24回生から2名の参加あり、参加して頂く卒業期の幅も5回生から24回生と少しずつではありますが、幅が広がって参りました。17回コンペ至っては、参加者が23名(6組)となり漸く瑞陵会のゴルフコンペもコンペらしくなってきたような気がします。

私がゴルフ幹事をさせて頂いてから、既に今年で5年目となり9回のコンペを実施してまいりました。この報告書も今年で4回目となります。現在会員数は60名弱となり、コンペ参加者の数が増えて来ている事は、幹事として大変嬉しく思っている次第です。これも偏にご先輩の方々始め、同期、後輩諸兄のご支援・ご協力の賜物と感謝申し上げます。特に17回コンペでは13回生の皆様に多く参加して頂き、当コンペを盛り上げて頂きました。

昨年もお伝えしましたように、是非同期の方をお誘い頂き、本同窓会親睦会コンペを利用して同期会コンペを実施されるのも一案かと思います。

また、17回コンペでは瑞陵会副会長の浜田様(15回生)、関東瑞陵会副会長安島様(18回生)が参加され、それぞれ瑞陵会及び関東瑞陵会の現況、事業活動等について話されました。このようにゴルフコンペという親睦会の場所を同窓会のコミュニケーションの場として活用して頂ければ幹事として幸甚に耐えません。これからも多くの方の参加をお待ちしております。

試合は新ペリア(ダブルペリア)方式で実施、結果は次の通りです(敬称略)

16回コンペ (H23・10・26)			17回コンペ (H24・5・23)		
	氏 名	卒業期		氏 名	卒業期
優 勝	伊藤 康郎	20回	優 勝	田中 寛	13回
準優勝	村瀬 範晃	5回	準優勝	栄 輝之	13回
3 位	石山 恒明	20回	3 位	土屋 頼信	18回
5 位	滝山 昭	16回	5 位	岩野 哲郎	18回
7 位	斎藤 二郎	13回	7 位	浜田 堯	15回
10 位	松葉 富子	18回	10 位	安島 政美	18回



※第18回コンペは10月24日(水)東名古屋C・Cを計画しています。

幹事連絡先：携帯 090-4850-1392 FAX052-205-6321

e-mail kimurashouji0601@yahoo.co.jp

タイムカプセル開封

浅井 (旧姓西川) 咲 希 (瑞陵52回卒)

【集合：タイムカプセルを開けよう】

2000年3月に卒業したわたしたち308ルームのメンバーは、男子生徒26名、女子生徒13名、計39名の理系クラスでした。わたしたちの卒業の年、担任であった井上努先生が定年退職されるため、卒業の記念として、瑞陵高校の敷地内にタイムカプセルを埋めました。そして、「30歳になったら、再びみんなで集まってタイムカプセルを開けよう」と約束し、それぞれの道へと旅立ちました。

卒業から10年以上経ち、2011年7月も終わろうとしていたある日、タイムカプセル係だったクラスメイトから、突如、連絡がありました。嫁入りのため渡英することとなり、今年で30歳になるので、日本を離れる前にタイムカプセル係の役割を果たしたいということでした。突然の招集にも関わらず、担任の井上努先生をはじめ、副担任であった西郷孝先生も参加してください、総勢18名が集まることになりました。そして、2011年8月13日、瑞陵高校に集合し、タイムカプセルを開けることになりました。

【タイムカプセル掘り起こし】

当日は、真っ青な空の広がる、とても暑い日になりました。瑞陵高校のポプラ並木は青々としげり、セミの声が響きわたっていました。

タイムカプセルは、10年経っても中身が傷んでしまわないよう、七輪ほどの大きさの缶に入れ、それをひと回り大きい鉄製の入れ物に入れて溶接し、さらに、大人のひざ丈ほどもある蓋付きのコンクリートブロックの中に入れるという3重構造でした。タイムカプセルと呼ぶには大きすぎる代物だったため、掘り出してから開封まで要した時間は2時間。井上先生が持参してくれたスコップを使い、男性メンバーが汗びっしょりになりながら、交代で掘り続けました。タイムカプセルの姿があらわれてからも、土の中から取り出すのに一苦労。その間、最年長であるはずの井上先生が一番働いていましたが、男性メンバー2人がかりでブロックを抱え、地中から取り出すことができました。そして、クラスメイトの親類も登場し、ブロックの蓋



を開け、鉄製の入れ物を電気のこぎりで切り、さらに中に入っていた缶の蓋をバールとトンカチをつかって開けるといふ大掛かりな作業となりました。中身の保存状態は完ぺきでしたが、「これだけしっかりと密閉されていたのなら、何も土に埋める必要はなかったのではないか」とみんなで苦笑まじりにふり返りました。

【タイムカプセル開封】

タイムカプセルの中には、当時の新聞や、球技大会や文化祭でもらった賞状、野球部エースだったクラスメイトの新聞のインタビュー記事、時間割や、座席表などが入っていました。時間割は、「1限～6限目まで、毎日こんなスケジュールで生活していたのか」と、とても興味深いものでした。中でも、月曜の1限目から体育の授業があり、「今は1週間の初めの朝から体育なんてできないね」と笑い合いました。また、タイムカプセルの中には、クラスメイト同士で書き合った手紙も入っていました。参加できなかった人もいたので、本人の手に渡らない手紙もありましたが、友人からの約12年ぶりのメッセージに、瑞陵高校で過ごした日々もよみがえり、心が学生時代に戻ったようでした。また、参加して下さった西郷先生が、卒業後に瑞陵高校の生物室へ遊びにいった時の写真を持ってきてくれ、生物室で西郷先生にお世話になったメンバーは、10代の頃の若さ溢れる姿に、気恥ずかしさと懐かしさを感じました。

【また来年集まろう】

そして最後に、担任だった井上先生から、わたしたち308ルームのメンバーにむけた手紙が読み上げられました。そこには、当時の社会情勢や、30歳になっているわたしたちへのメッセージが書かれていました。「きっと、みんな結婚し、子どももいることでしょう」という先生の予想に反し、参加したメンバーの多くが、晩婚化・少子化に拍車をかけていましたが、不況、円高、震災と大変な状況の中で、30歳の自分たちが、これからの社会をがんばって支えていかなくてはならないなあと感じました。そんな先生からの心に響く手紙の中、実はタイムカプセルは2012年8月第4日曜に行われる瑞陵会に合わせて開ける予定だったことが判明…。1年早かったタイムカプセル開封でしたが、『今回集まれなかった仲間もいるため、また来年もみんなで集まりたいね』とみんなで笑い合いました。

臨時総会・役員会報告

今回の会則・役員の変更に関して簡単に説明をさせていただきます。

昨年度の交流会の席で高木会長から中村会長への交代が発表されました。それを受けて現在の正副会長が中心になって、瑞陵会の課題である(1)組織・行事の充実、(2)ネットワークづくり、(3)財政の健全化に対応することを考えました。4月からの任期に間に合う

よう1月31日に臨時総会を開き方針を決定し、5月1日の役員会で決算報告・予算案を承認するとともに、不足の点を追加・修正しました。

(1) 組織・行事の充実

- ① 名誉顧問の他に、各界の著名人からなる顧問を置き同窓会を支えて頂く。
- ② 役員会を、会長・副会長と人数を増やした常任幹事で構成する。
- ③ 総会実行委員会・親睦委員会・会報委員会・賛助会費募集委員会を置き、役員等で担当する。
- ④ 総会を毎年開催する。

(2) ネットワークづくり

- ① 従来の幹事を期別幹事と改め、各年次のとりまとめと瑞陵会との連絡調整をして頂く。期別幹事には従来の幹事に加えて、各期のとりまとめをしている方を加える。
- ② 瑞陵会の事務局を設置する。財政基盤を確立して、将来的には専任の事務局員を置けるようにする。

(3) 財政の健全化

- ① 賛助会費を募集する。(一口5,000円とし一口以上で募集)
賛助会員には5年間会報を送る。(会報はHPでも閲覧可)
この賛助会費を活用し、瑞陵会行事の充実、瑞陵高校・在校生への支援充実を図る。
- ② 期別幹事の力を借り、各期の会員に賛助会費へ協力を依頼する。また、部活動等の組織の力も借りて協力依頼をする。

瑞陵会 会則

第1条 本会は瑞陵会と称す。

第2条 本会は会員相互の親睦をはかり、併せて母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は愛知県立第五中学校、愛知県熱田中学校、愛知県熱田第二中学校、愛知県実務女学校、愛知県女子商工学校、愛知県貿易商業学校、愛知県立瑞陵高等学校卒業生を会員とし、母校現職員及び旧職員を客員とする。

但し、中途転校者等かつて在籍した者も希望すれば役員会の承認を得て会員とすることができる。

第4条 本会に次の役員及び期別幹事を置く。

- (1) 名誉会長 1名 現職学校長
- (2) 会長 1名
- (3) 副会長 若干名
- (4) 常任幹事 若干名
- (5) 総務 2名 瑞陵高校現職員から選出する。

(6) 会計管理 3 名 うち1名は瑞陵高校事務職員とする。

(7) 監 査 2 名

第5条(1) 前条の役員は、総会で選出する。

(2) 役員は任期は2年とする。但し、再選は妨げない。

(3) 役員が欠けたときには、役員会において選出、補充することができる。この場合は、総会で報告し、承認を得ることとする。

第6条 各役員は次のとおりとする。

(1) 会 長 本会を代表して会務を統括する。

(2) 副 会 長 会長を補佐し、会長に事故ある時はこれに代わる。

(3) 常任幹事 役員会を構成し審議する。

(4) 総 務 事務を管理する。

(5) 会計管理 会計を管理する。

(6) 監 査 会計を監査する。

第7条(1) 本会に名誉顧問及び顧問を置く。

(2) 名誉顧問は、歴代会長及び同窓会に顕著な功績のあった方から、総会の議決を経て会長が委嘱する。

(3) 顧問は、経済界、学会、法曹界、教育界、スポーツ界など各種分野の著名人で、同窓会を支えていただけの方から、総会の議決を経て会長が委嘱する。

(4) 名誉顧問及び顧問は、会長の諮問に応じ助言する。

第8条(1) 第4条の期別幹事は、各年次ごとに若干名を置き、各年次の取りまとめ及び本会との連絡調整などの任務を行う。

(2) 期別幹事は、役員会の推薦を経て会長が委嘱する。

(3) 期別幹事の任期は2年とする。但し、再任は妨げない。

第9条 本会はその目的達成のため、次の会合及び毎年1回交流会を開く。

(1) 総会 定例総会は毎年1回開催し、臨時総会は役員会で必要と認められた時にこれを開催し、次の事項を審議する。

① 会則の改正

② 役員を選出

③ その他必要事項

(2) 役員会 第4条の役員で構成し、次の事項を審議し、会務を処理する。

① 総会に付議する事項

② 会務及び会計

③ 専門委員会の承認

④ その他必要事項

第10条 議決はすべて出席員の過半数によって定められる。

第11条(1) 会長は役員会の議決を経て次の専門委員会を置くことができる。

① 総会実行委員会

② 親睦委員会

③ 会報委員会

④ 賛助会費募集委員会

⑤ その他必要と認める委員会

(2) 専門委員会の委員長は役員から充て、委員は役員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第12条(1) 本会に事務局を置き、本会の事務及び会計を処理する。

(2) 事務局に事務局長を置き、事務及び会計を統括する。

(3) 事務局に事務局次長を置き、事務局長を補佐する。

(4) 事務局長及び事務局次長は、役員のうちから会長が委嘱する。

(5) 事務局に庶務及び会計担当を若干名置き、瑞陵高校現職員及び旧職員のうちから会長が委嘱する。

第13条 本会の経費は次の収入をもってこれに充てる。

(1) 入会金 3,000円とする。

(2) 賛助会費 一口5,000円（5年分）以上とする。

(3) 広告料、交流会費、その他の収入

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第15条 本会の事務局を瑞陵高等学校内に置く。

第16条 会員多数の地には、総会の承認を得て支部を設けることができる。

第17条 本会則は、総会の議決を経なければ改正することはできない。

第18条 本会則に定めない事項は、役員会の審議を経てこれを決定する。

付則1 改正規定は、平成24年度から施行する。

付則2 平成24年度総会の準備、賛助会費の募集、会報の準備など、会長が必要と認める事項は、平成24年1月31日以降、専門委員会準備会を設置し、準備を進めることができる。

H24・25年度 役員一覧

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 名誉会長 | 吉沢雅之(校長) |
| 2 | 名誉顧問 | 鳥居 大(五37) (百周年事業委員会委員長)
中神 靖(瑞3) (元会長)
高木 修(瑞5) (前会長・弁護士) |
| 3 | 顧 問 | 判治誠吾(瑞12) (大同メタル工業株会長)
斉藤二郎(瑞13) (愛知県スキー連盟副会長, 現副会長) |

	伊神勝彦(瑞15) (中京高校校長, 元瑞陵高校校長)	寺田志郎(瑞20) 濱島誠一郎(瑞20)
	加藤正躬(瑞17) (元愛知県小中校長会副会長)	森 重統(瑞20) (事務局長、会報担当)
	久田宗弘(瑞17) (DCMホールディングス社長)	澤田耕一(瑞21)
	松下 雋(瑞17) (日本ガイシ(株)代表取締役会長)	秋田真希子(瑞21)
	揖斐敏夫(瑞19) (石油資源開発(株)専務取締役)	木村恵子(瑞21)
	錫村明生(瑞20) (名古屋大学医学部教授)	柴田達男(瑞21)
4 会 長	中村利雄(瑞17) (日本商工会議所・東京商工会議所専務理事)	神谷彰彦(瑞22) (事務局、総会・交流会担当)
5 副 会 長	濱田 堯(瑞15) (賛助会費募集委員会委員長)	鬼頭 誠(瑞22)
	荒木郷兵(瑞16) (賛助会費募集担当)	鬼頭恵子(瑞22)
	江副嘉彦(瑞16) (総会実行委員会委員長)	近藤哲典(瑞22)
	青木偉晃(瑞17) (会長補佐)	成田龍一(瑞23)
	天野清美(瑞17) (会長補佐)	松尾知之(瑞23)
	一ノ瀬喜之(瑞18) (総会・交流会担当)	下岡和美(瑞23)
	浜島昭二(瑞19) (会報委員会委員長)	上杉修平(瑞24)
	佐合広利(瑞20) (総会・交流会担当 賛助会費募集担当)	渡邊正詞(瑞24)
6 常任幹事	柴田章子(実1)	朝倉隆司(瑞25)
	熊崎憲次(五34)	天鷲操子(瑞25)
	三浦チエ子(瑞5)	伊藤賢治(瑞25)
	武藤正男(瑞定6)	大路 弘(瑞25)
	坂東信吾(瑞13)	中根卓郎(瑞25)
	稲田萬吉(瑞14)	大島正範(瑞26)
	水野茂明(瑞14)	野田高広(瑞26)
	樋口順一(瑞15)	西郷 孝(瑞27)
	滝山 昭(瑞16)	鈴木英利(瑞27)*
	石橋 畝(瑞17)	早瀬弘親(瑞27)
	片山真紀(瑞17)	若松文彦(瑞27)
	水野達郎(瑞17)	田中健二(瑞28)
	岩野哲郎(瑞18)	富屋誠一郎(瑞28)
	木村鍾治(瑞18) (親睦会委員会委員長)	青山和暁(瑞29)
	小野俊夫(瑞19)*	玉山哲郎(瑞30)
	木下道子(瑞19)	佐藤成俊(瑞38)
	栗田真砂(瑞20)	7 総 務 日比野憲一 (全日教頭)
		牛田 守 (全日教頭)
		8 会計管理 中嶋 覚 (事務長)
		9 監 査 大谷宜生 (定時教頭)
		河津弓彦 (瑞4)

※印 5月1日役員会で追加

賛助会費募集

高木前会長の挨拶文にもありますが、瑞陵会はネットワーク作りと財政再建が最大の課題です。特に財政面ではこの数年間は赤字が続いており、財政の健全化は焦眉の急となっております。

そこで、財政健全化のために賛助会費を募ることに致しました。5年分の年会費と考え賛助会費にご協力下さい。5年間会報を送らせていただきます。会報は瑞陵会ホームページでもご覧頂けますが、あなたの愛校心が瑞陵会の支えです。振り込み用紙の請求は瑞陵高校内瑞陵会事務局までどうぞ。

賛助会費 一口 5,000円 (一口以上でお願いします)

郵便振替 (口座番号00880-7-190740)

払込先 瑞陵会

会報発送と名簿整理の都合上 〒・住所、氏名、回生(卒業年度)をご記入下さい。

瑞 陵 会 報

平成23年度 瑞陵会会計決算書

収入済額 5,168,126 円 支出済額 3,687,316 円
 残額 1,480,810 円

収入の部 (単位：円)

項 目	予算額	収入済額	増減額	摘 要
繰越金	1,865,479	1,865,479	0	前年度から繰越
繰入金	0	1,227,975	1,227,975	積立金会計等から繰入(エアコン)
入会金	1,170,000	1,158,000	△12,000	3,000円×390名
参加費	500,000	605,000	105,000	総会参加費
賛助金	1,000	309,500	308,500	名刺広告収入等
雑収入	521	2,172	1,651	預金利息等
合 計	3,537,000	5,168,126	1,631,126	

支出の部

項 目	予算額	支出済額	残 額	摘 要
事務費	950,000	279,243	670,757	
報償費	550,000	0	550,000	表彰費等
通信費	150,000	105,197	44,803	電話料・郵便切手等
需用費	250,000	174,046	75,954	電気料・消耗品費等
会議費	250,000	121,465	128,535	
役員会	100,000	107,800	△7,800	会議経費等
委員会	50,000	0	50,000	会議経費等
幹事会	50,000	0	50,000	会議経費等
需用費	50,000	13,665	36,335	消耗品等
事業費	2,200,000	3,286,608	△1,086,608	交流会会場費
交流会会場費	1,150,000	1,390,218	△240,218	懇親費等
印刷費	650,000	551,375	98,625	会報印刷・発送費等
学校支援事業	400,000	1,345,015	△945,015	視聴覚室エアコン等
予備費	137,000	0	137,000	
合 計	3,537,000	3,687,316	△150,316	

平成23年度 瑞陵会積立金会計決算書

収入済額 5,125,603 円 支出済額 1,227,975 円
 残額 3,897,628 円

収入の部 (単位：円)

項 目	予算額	収入済額	増減額	摘 要
繰越金	5,123,181	5,123,181	0	前年度から繰越
繰入金	0	0	0	百周年記念事業会計から繰入
雑収入	6,819	2,422	4,397	預金利息等
合 計	5,130,000	5,125,603	4,397	

支出の部

項 目	予算額	支出済額	残 額	摘 要
繰出金	0	1,227,975	△1,227,975	瑞陵会会計に繰り出し

*平成23年度 瑞陵会ポプラシート事業
 御園座観劇(10月) 支出額 250,525円(残額 1,667,457円)

平成24年度 瑞陵会会計予算書(案)

収入予算額 5,451,000円 支出予算額 5,451,000円
 差引額 0円

収入の部 (単位：円)

項 目	予算額	前年度収入額	増減額	摘 要
繰越金	1,480,810	1,865,479	△384,669	前年度から繰越
繰入金	1,000,000	1,227,975	△227,975	賛助会費会計から繰入
入会金	1,170,000	1,158,000	12,000	3,000円×390名
参加費	1,500,000	605,000	895,000	総会参加者(300名)
広告収入	300,000	309,500	△9,500	名刺広告収入等
雑収入	190	2,172	△1,982	預金利息等
合 計	5,451,000	5,168,126	282,874	

支出の部

項 目	予算額	前年度支出額	増減額	摘 要
事務費	1,250,000	279,243	970,757	
報償費	550,000	0	550,000	表彰費等
報酬費	300,000	0	300,000	非常勤職員の報酬
通信費	150,000	105,197	44,803	郵便切手等
需用費	250,000	174,046	75,954	電気料・消耗品費等
会議費	250,000	121,465	128,535	
役員会	150,000	107,800	42,200	会議経費等
委員会	50,000	0	50,000	会議経費等
需用費	50,000	13,665	36,335	消耗品等
事業費	3,814,000	3,286,608	527,392	
交流会会場費	2,064,000	1,390,218	673,782	懇親費等
印刷費	850,000	551,375	298,625	会報等印刷・送付費
学校支援事業	900,000	1,345,015	△445,015	生徒向け学習環境整備
予備費	137,000	0	137,000	
合 計	5,451,000	3,687,316	1,763,684	

平成24年度 瑞陵会積立金会計予算書(案)

収入予算額 3,898,000円 支出予算額 0 円
 差引額 3,898,000円

収入の部 (単位：円)

項 目	予算額	前年度収入額	増減額	摘 要
繰越金	3,897,628	5,123,181	△1,225,553	前年度から繰越
繰入金	0	0	0	百周年記念事業会計から繰入
雑収入	372	6,819	△6,447	預金利息等
合 計	3,898,000	5,130,000	△1,232,000	

支出の部

項 目	予算額	前年度支出額	増減額	摘 要
繰出金	0	0	0	

*平成24年度 瑞陵会ポプラシート事業(案)
 御園座観劇(年2回)(準備金残額 1,667,457円)

平成24年度 瑞陵会賛助会費会計予算書(案)

収入予算額 5,001,000円 支出予算額 1,000,000円
 差引額 4,001,000円

収入の部 (単位:円)

項目	予算額	前年度収入額	増減額	摘要
繰越金	0	0	0	
賛助会費	5,000,000	0	5,000,000	1000名
雑収入	1,000	0	1,000	預金利息等
合計	5,001,000	0	5,001,000	

支出の部

項目	予算額	前年度支出額	増減額	摘要
繰出金	1,000,000	0	1,000,000	

コスモサイエンスコースにおける活動

平松雅大 (瑞陵高校職員)

平成19年度から瑞陵高校・普通科に「コスモサイエンスコース」が設置されることになりました。コースとしての目標を、「実験・実習を通して、比較的高度な理学的数学的な見方・考え方を学ぶとともに科学的素養を身につけ、国際的な視野をもった将来の科学技術開発を担う人材を育成する。」こととしました。またコスモサイエンスコース1期生が2年生に進級した平成20年度初めに、「愛知スーパーハイスクール研究指定事業(教育課程部門)」の募集があり、瑞陵高校として応募し、3年間の研究校に指定され「自然科学教育における、高大連携による体験的プログラムを中心としたカリキュラム開発」を行ってきました。

<平成23年度の具体的活動内容(高大連携プログラム)>
 1年生

(1)「特別授業」

- 第1回;「実践型地域研究の紹介」についての講義
- 第2回;「生物の体内時計」についての講義
- 第3回;数学分野 数学分野の実験への応用の講義
 「三角関数を用いて“電気”をどのように表現し応用していくかを実験を通して学ぶ」

(2)「校外学習」

- 第1回;生物分野「知多半島荒磯松海岸の磯の観察および盛田味の館」見学
- 第2回;地学分野「名古屋市科学館」での講義・見学
- 第3回;地学分野「豊橋自然史博物館」での微化石実習
- 第4回;生物分野「岐阜県先端科学技術体験センター」での遺伝子工学入門講座



2年生

総合的な学習の時間を「最先端の科学に触れる、興味を持つ。」「高校で学習していることが、大学やその先にどうつながるか、何のために学んでいるかがわか



る。」目標とする“サイエンス講座”を実施。

- 第1回;化学分野 超高分解能顕微鏡についての実験実習
- 第2回;物理分野 点滅回路の制作実験と仕組みについての講義実習
- 第3回;物理分野 核融合科学研究所(岐阜県土岐市)にて実験・施設訪問
- 第4回;物理分野 「LEGOを用いたシステム工学」についての講義・実習
- 第5回;物理分野 霧箱を使った放射線の実習
- 第6回;英語分野 理工英語の講義
- 第7回;生物分野 英語による生物実験実習
 《JSPSサイエンスダイアログ事業》
- 第8回;化学分野 「電池(燃料電池と太陽電池)」についての実験実習
- 第9回;物理分野 碧南・川越火力発電所施設見学
- 第10回;物理分野 点滅回路の作成



3年生

- 第1回;化学分野 豊田工業大学教授による有機化合物についての講義
- 第2回;物理分野 名古屋大学理学部長による宇宙物理学についての講義
- 第3回;生物分野 名古屋市立大学教授による分子生物学についての講義

<成果・課題>

体験型カリキュラムは教員主体で立案され、生徒は与えられた内容を実施する。その中に、生徒が課題を見つけ解決する方法を習得できるように工夫する必要性を感じます。

また、平成21年度より中学生への学習内容・成果の発表会として学習発表会やコース説明会で学習内容を簡単にまとめてプレゼンや自作資料・動画編集による活動内容の紹介などを実施しています。生徒は、発表に際して学習内容を深く理解し直し、発表内容を簡潔に中学生でも理解できるように工夫していました。この経験は、自ら考え課題を見つけ解決する行動につながると考えています。

最近のポプラシート事業について

瑞陵高校職員 梶野 玲子



百周年記念事業のひとつとして、高校生に日本の伝統芸能である歌舞伎を鑑賞させる「ポプラシート」事業が企画されました。これは同窓会が資金を提供して年2回、10年間、御園座の座席を50席ずつ高校生・留学生にプレゼントするものです。現在は新聞で公募するとともに本校の生徒にも案内して鑑賞してもらっています。

この6月は「御園座さよなら公演」と銘打って「六月大歌舞伎」が行われ本校生徒40名、他校の生徒10名が参加しました。生徒たちは事業の目的をよく理解しており、積極的に応募しています。以下に生徒の感想文を載せます。

御園座が改築されますが、先輩方のすばらしい発想とご厚意に基づくこの事業が今後も続くことを期待します。

・瑞陵高校 3年女子

私は日本人なのに日本の伝統に触れていないのはおかしいと思い、今回のポプラシートに応募しました。そして様々な発見をし、大きな感動を味わいました。

劇場内に入りまず感動したのは緞帳です。きれいな富士山が刺繍されていて、きれいだなと思っていたらイヤホンによる緞帳の紹介が行われました。すると、緞帳の下からまた別のきれいに刺繍された緞帳が現れ、とてもおどろきました。そして開演時間が近くなるとまた緞帳が上がり、今度はお茶漬けのパッケージで見慣れているあの柄の幕が現れたのです。その見慣れた柄に、初めての歌舞伎鑑賞という緊張が少しほぐれた気がしました。開演すると、当たり前かもしれませんが、台詞はみな古典の授業のようで、なかなか理解に苦しみました。しかし、三味線や太鼓などの音色や大向こうの掛け声など、そして何より役者さんたちの演技で、どういったお話かわかってしまったのです。おかげで最後まで楽しく、そして時々恐怖を感じながら、歌舞伎の世界に入り込むことができました。

夏祭浪花鑑では序幕で笑い所がたくさんありました。二幕目でのお辰の勇気と心意気に三婦と同じように息

をのみ、大詰での団七と義平次とのやり取りでは序幕とのギャップが大きすぎて恐怖を感じ、夏祭と団七のコントラストには鳥肌がたちました。夏祭浪花鑑と打って変わって、笑いで包まれた次の演目の素襖落では、太郎冠者のコミカルな演技ややり取りから、台詞がわからなくても彼らの陽気なパワーが伝わってきました。また、笑いの中での太郎冠者の那須の与一。「扇的」の件を語るシーンには言葉に表せない程の迫力があり、ただただ感動するばかりでした。

そして素襖落の市川海老蔵さんには、以前までイメージしていたのとは異なり本当に素晴らしい役者さんなのだと、失礼ながら思いました。女役までやるとは思っていませんでしたし、一つのお話で主役級の役を一人二役やる方なのだとびっくりしました。そして素襖落の市川團十郎さんは、さすが海老蔵さんのお父様と実感しました。太郎冠者が団十郎さんに乗り移ったような自然な演技に本当に感動しました。他の役者さんたちも、見ているこちらが楽しくなったり悲しくなったりするような素晴らしい演技でした。どちらの作品もあつという間に終わってしまい、歌舞伎をもっと見たいと強く思いました。

今回、このような機会に歌舞伎を初めて見ましたが、歌舞伎は年配の方々だけではなく、私達のような若者はもちろん、どんな年代の人でも楽しめるのだと思いました。最後に、このような機会に恵まれた瑞陵高校に入学できて本当によかったです。



瑞陵高校進路セミナー

平成23年度実施分

- ① 6月3日(金) 法学入門
白井 幹裕先生 瑞陵高校卒業
(愛知県弁護士会 弁護士)
- ② 6月9日(木) 結び目のトポロジー
鎌田 直子先生 瑞陵高校卒業
(名古屋市立大学システム自然研究科准教授)
- ③ 6月14日(火) バングラディッシュの村人に学ぶ
安藤 和雄先生 瑞陵高校卒業生
(京都大学 東南アジア研究所准教授)
- ④ 10月21日(金) 愛知万博の千年時計の製作者に学ぶ
成瀬 拓郎先生 瑞陵高校卒業生
(ナルセ時計株式会社 代表取締役)

部活動の活躍

平成23年度 全国大会

(全日制)

陸上競技部 全国高校総合体育大会

棋道部 全国高校文化祭 (将棋女子個人)

全国高文連新人戦 (将棋女子個人)

(定時制)

陸上部 全国高校定通大会 (女子個人)

平成24年度は次の部が全国大会に出場します。

陸上競技部 高校総体 男子800m、

女子走幅跳 7/31～8/2 新潟市

棋道部 全国高等学校将棋竜王戦

8/20～8/22 福岡市

名古屋市市内県立高校体育大会 (23校中)

男子総合 第2位 女子総合 第2位

陸上男子総合優勝 陸上女子総合3位 剣道女子
団体準優勝 野球優勝 卓球部男子団体3位 女
子バドミントン3位 男子テニス3位 サッカー
準優勝 バスケ男子3位、女子4位 水泳部男子
100mバタフライ3位・100m自由形3位、女子100m

バタフライ3位・200m自由形3位 柔道男子3位

陸上競技部 県高校総体 男子800m2位・女子走高跳
び2位・女子走幅跳び4位・女子七種競技4位・男
子400mR4位・男子砲丸投げ4位・男子1600m4位
・女子1600mR5位 東海高校総体 女子フィー
ルドの部3位・女子走高跳び優勝・女子走幅跳び4
位・男子800m6位・男子砲丸投げ7位 全国高校
総体 女子走高跳び25位・男子800m40位・女子走
り幅跳び21位

東海陸上選手権 女子三段跳び3位・女子走高跳
び8位

愛知レディース陸上 女子走り幅跳び3位

愛知県高等学校新人大会 女子走幅跳び2位・男
子800m5位・男子1500m6位

県高校総体 陸上部以外に

女子バドミントン サッカー 水泳男子 水泳女
子 柔道男子 柔道女子が県大会出場

サッカー部 全国高校サッカー選手権で県大会出場

棋道(将棋)部 全国高校将棋選手権愛知県大会 女子
団体3位 女子個人準優勝

東海三県高校大会Aリーグ3位

大学入試状況

大学合格者延べ数 過年度卒業生も含む (一部の大学のみ掲載)

	24年度入試	23年度入試	22年度入試		24年度入試	23年度入試	22年度入試
北海道大	1	1	5	青山学院大	5	4	2
東北大	1	0	1	慶応義塾大	4	1	3
筑波大	5	5	0	早稲田大	10	9	7
千葉大	2	3	1	上智大	1	2	0
東京工業大	1	0	1	明治大	17	22	20
東京外国語大	1	1	0	法政大	14	11	10
一橋大	1	0	0	立教大	9	4	9
横浜国大	2	0	1	中央大	12	5	9
富山大	3	4	2	東京理科大	24	11	20
金沢大	4	4	1	日本大	5	6	5
福井大	1	0	1	愛知大	45	33	22
信州大	5	4	5	愛知医科大	11	7	0
静岡大	3	3	11	愛知学院大	17	14	14
愛知教育大	9	10	12	愛知淑徳大	35	53	37
名古屋大	24	16	30	金城学院大	22	8	12
名古屋工業大	13	17	13	椋山女学園大	26	18	15
岐阜大	10	7	7	中京大	69	71	56
三重大	14	12	15	豊田工業大	6	4	4
京都大	3	0	0	南山大	144	108	88
大阪大	2	1	1	名古屋外大	9	16	10
奈良女子大	1	1	1	名城大	99	83	66
神戸大	3	2	3	藤田保健衛生大	10	6	14
広島大	1	0	0	京都女子大	0	4	5
九州大	1	0	0	立命館大	106	51	72
首都大学東京	2	0	4	同志社大	37	17	41
愛知県立大	9	6	7	関西大	18	10	9
名古屋市立大	18	6	11	関西学院大	17	4	7
国公立大学計	168	113	147	私立大学計	933	695	653

国公立医学部 (名市大、福井大、琉球大、防衛医科大学校)

